

## 留学を終えて

みなさんこんにちは。ただいま帰りました。先生も大勢異動された上、1年生の顔もいまいわからないので転校してきたような気分です。空港に到着したときに少し思ったのですが、日本は味噌の匂いがしますね。

初の海外、ホームステイ、私の人生の中で大きな経験となった10ヵ月間は、今振り返っても波乱に満ちたものでした。オーストラリアといえばコアラとカンガルー、そして危険生物。今考えてみると、それだけの知識で飛び出した私はどれだけ無謀な挑戦をしようとしていたのだろうと思います。私は今まで、人生のほとんどを日本の離島という小さな世界で温かい人に囲まれて生きてきました。世界中で起きていることを知ったふりをして、どこか私に関係のないことのように捉え、自分の無知を知ろうとしなかった、と言っても過言ではないでしょう。経験したことをすべて書くと、前回のようにとてつもなく長くなってしまいますので詳しくは1月の成果発表会で発表させていただくとして、今回は私が10ヵ月間で学んだことに焦点を当てて感想を書かせていただきたいと思います。英語や外から見た日本の良さ、ベジマイトの何とも言えないあの味だけではなく、私はオーストラリアでたくさんのことを学びました。

一点目は、差別の現状です。差別なんて、日本人も受けるの？と思う人もいます。悲しいことですが、日本に外国人差別をする人がいるように、世界中どこでも差別はあります。今までは差別を受けた人の気持ちも知らないまま「差別はだめだ」と言っていたのですが、実際にそういう体験をして初めて現状がわかった気がします。

二点目は、大切にすべき友達です。これは様々な事情で九月中旬にアデレードに転校した時のことなのですが、急に何事にも興味がなくなり、異常なほど疲れていた時期がありました。環境は変わったし、幸せなはずなのにどうしてだろうと悩んでいました。笑顔でいられるときは、人が自然に集まってきてくれます。でも、自分が苦しくて元気でいられなくなったときはそうではありません。そんなときでも傍にいてくれたオーストラリア人の親友、ヤズミンという女の子に何度も助けられました。もちろん日本から励ましてくれた人もですが、自分がうまくいかないときでも支えてくれる人を大切にしたいと思ったし、私もそんな人になろうと思いました。

三点目は学んだことというよりはこれからのことになります。海外に行くことで日本にいる外国人の気持ちがわかるようになったので、困っている人がいたら積極的に声をかけたいです。次世代リーダー育成道場の卒業生として、日本は変えられないとしても自分ができることを見つけて行動していきます。

オーストラリアで経験したりわかったりしたほとんどのことは、出発前に想像もできなかったことでした。世界は想像したよりずっと厳しかったですが、すべての経験は私を強くしてくれたと思います。そして、この素晴らしい機会を与えてくださったすべての人、親や先生方、支えてくれた友達みんなに感謝します。ありがとうございました。そして、これからも全力で頑張りますのでよろしくお願ひします。

追記:もし、留学のことについてでもなんでも、話したいという方がいたら気軽に話しかけてください!

寺本愛乃



## 総合防災訓練

「東京都・大島町・利島村合同総合防災訓練」について

11月21日(月)の午前中に標記の訓練に参加しました。11月21日は1986年に起きた三原山中規模噴火において噴火の最も激しくなった日付です(噴火は11月16日に始まり、拡大して11月21日に北東山腹から北カルデラ床にかけてと外輪山北西山腹で割れ目噴火が発生)。訓練はこの日付からちょうど30周年の節目に計画されたものでした。三原山の中規模噴火は、ここ200年間程は36~39年の周期で発生していたという統計があります。昨今は、南海トラフの震源域による大地震・大津波の予測もあり、最も大変な状況になった時にどう行動するべきなのかを想定し実施した訓練でした。

大島町の南部は旧差木地小学校が会場でしたが、もしも南部地域が大津波に襲われたとき本校の避難先は、第三中学校(つつじ小)の方が適切であるという考えもあります。差木地小の訓練会場は大島町役場や大島町消防本部、海上自衛隊等の組織が連携し行動がしやすいように考えられた訓練会場の設定でした。



災害時の「自助」「共助」という言葉は皆さん良く知っていると思いますが、さらに「公助」という言葉があります。今回の訓練は、東京都及び大島町・利島村、各防災機関が合同で防災訓練を実施することにより、応急対応能力の向上を図ることが目的でした。

「公助」は公共機関が住民に対する助けを行うことですが、組織が動くときに組

織間の協力というものが結構難しいことを感じる場面もありました。前日の「共助訓練のリハーサル」に参加した生徒が経験したことです。大島町消防本部が準備する物資と東京都側が準備する物資が分担されていて、訓練リハーサルに使う「三角巾」が届かず、リハーサルではその練習ができず、三角巾による包帯法は当日練習しなければなりません。このように、公共機関同士の連携も、結局は主に人と人とのコミュニケーションがうまく取れないことが原因で、うまく機能できない場合があることを実感しました。皆さんは、日頃意識していないかも知れませんが、学校生活の中で言語活動を通して対人関係やコミュニケーション能力を磨いています。コミュニケーション能力を伸ばすにはどんな行動・活動が有効なのか考えてみてください。答えは決まった型があるわけではなく、その人にあったやり方があると考えます。

皆さんは訓練に参加してどのような感想を持ったのでしょうか。海上自衛隊の船舶に乗船するはずだった20名の生徒は、波浪が高く船が接岸できず、避難桟橋から船を遠目に見ただけだったようです。町役場、消防本部、学校側が校長室で打合せした際、山寺校長はそういう事態を想定し発言しておられました。期待して現場に向かった生徒は残念だったことと思います。

明治時代の物理学者寺田寅彦博士は、「天災は忘れた頃にやってくる」と述べています。私たちは、いつ災害に見舞われるか誰も分からないで生活しています。発災時には、まず、自分の命を守り、近くにいる人の人命救助の働きができるように日頃から心身を鍛錬しておきたいものです。また、非常事態に備えた行動・非常持出袋についても考え、備えておきましょう。

(副校長 原田柊太)

## 生徒会

9月に生徒会役員選挙があり、これから1年間このメンバーで活動していきます。生徒会長よりのコメントを掲載します。



私たち10期生徒会は、前年度の生徒会に負けないよう、そして追い抜けるように日々頑張っています。生徒の代表という自覚を生徒会役員皆が持ち、それに恥じることのないようにしていきたいと思います。生徒会内で課題はまだありますが、生徒会役員が一丸となり乗り越えていきます。生徒会役員一同精一杯頑張りますので応援・御協力のほどよろしく願いいたします。

生徒会長 高沼 優気

## ジオパークキャラクター 命名

伊豆大島ジオパークキャラクター名の募集があり、2年生中村菜々美さんが応募した名前が採用されました。12月5日に、最優秀賞として三辻大島町長より表彰されました。

ジオパークとは「地球を学び丸ごと楽しめる場所」という意味です。日本には43か所あります。キャラクターが大島の各所で活躍すると思います。よろしく願いします。



<p>葉っぱが舞い落ちる音から。ヒーローが飛び降りて「ヒラリと参上!」と助けに来てくれるようなイメージで名づけました。</p>	<p>波の音から。おおらかに周りを包み込むイメージで名づけました。</p>	<p>噴火するときの音から。力強く、縁の下の力持ち、やるときにはやるイメージで名づけました。</p>

## 郷土芸能部

11月20日に高等学校文化連盟東京都大会に出場しました。5年ぶりとなるので全員初出場ということで不安なところもありましたが努力が実り、結果は、銀賞でした。3年生の秋野紗雅さんが審査員特別賞を受賞しました。



今回のような貴重な経験を得ることが出来たのは、先生方と太鼓を教えてくださいました。御神火太鼓保存会の方々のおかげです。本当にありがとうございました。

郷土芸能部の知名度はまだあまり高いとは言えませんが、今回の大会出場をバネに、部員が増えていくことを切に願います。

部長 加藤なみか

## 教育実習生よりの感想

教育実習を終えて

10月24日～11月10日までの3週間母校である本校で教育実習をさせていただきました。そしてこの実習期間はあっという間に終わってしまったというのが正直な気持ちです。朝から夜まで指導案を作成したり授業を実際に進めたりしていくことはとても大変で難しい事だらけでした。

なぜなら、「学校は生き物」だからです。その日の天候や生徒の調子によってまったく別の顔を見せる、いつもの反応とは違うそんなことがあるからです。私自身が生徒であったときも調子の上がり下がりですら返って振り返ってみると思えます。ただそんなことを言っても授業は始まってしまう。そしてその中で進度をそらえたり、同じレベルで授業をされたり先生方はプロであると改めて感じることができました。

私は来年から教師ではなく、ましてや体育・スポーツなどとは全く関係の無い一般企業に就職してしまいましたが今回の経験を忘れずに今後の生活にいかしていこうと思います。持つべき軸はぶらさずに夢や目標に向けて頑張ってください。

日本体育大学体育学部社会体育学科  
平井 将太郎



3週間ありがとうございました。

あっという間の3週間でしたが授業や部活で楽しく話しかけてくれたり、廊下ですれ違った際に元気よく挨拶や声をかけてくれてとても嬉しかったです。

また、4年ぶりに母校に帰ってきて思ったことは、環境が整っているということです。皆さん自身が成長できる環境、部活を頑張れる環境、勉強に取り組める環境、様々な環境が整っていると感じました。また、皆さんの夢や目標を応援して下さっている先生方がとても熱心で皆さん以上に一生懸命だということです。こういった環境は珍しく、当たり前ではないと思います。このような環境を活かして夢や目標を達成できるよう、これからも頑張ってください。そして残りの高校生活を有意義なものにして下さい!!皆さんののおかげでとても楽しい3週間でした。ありがとうございました。

日本体育大学体育学部社会体育学科 栗原 伶奈